

北信越地区の機関リポジトリの現状と課 事前アンケートの集計結果報告

DRF地域ワークショップ(北陸地区)発表資料(2008年2月7日, 金沢大学)

金沢大学情報部情報企画課
情報企画係長 橋 洋平



発表の内容

北信越地区の機関リポジトリ構築の現状と課題
について、事前アンケート調査結果から概観

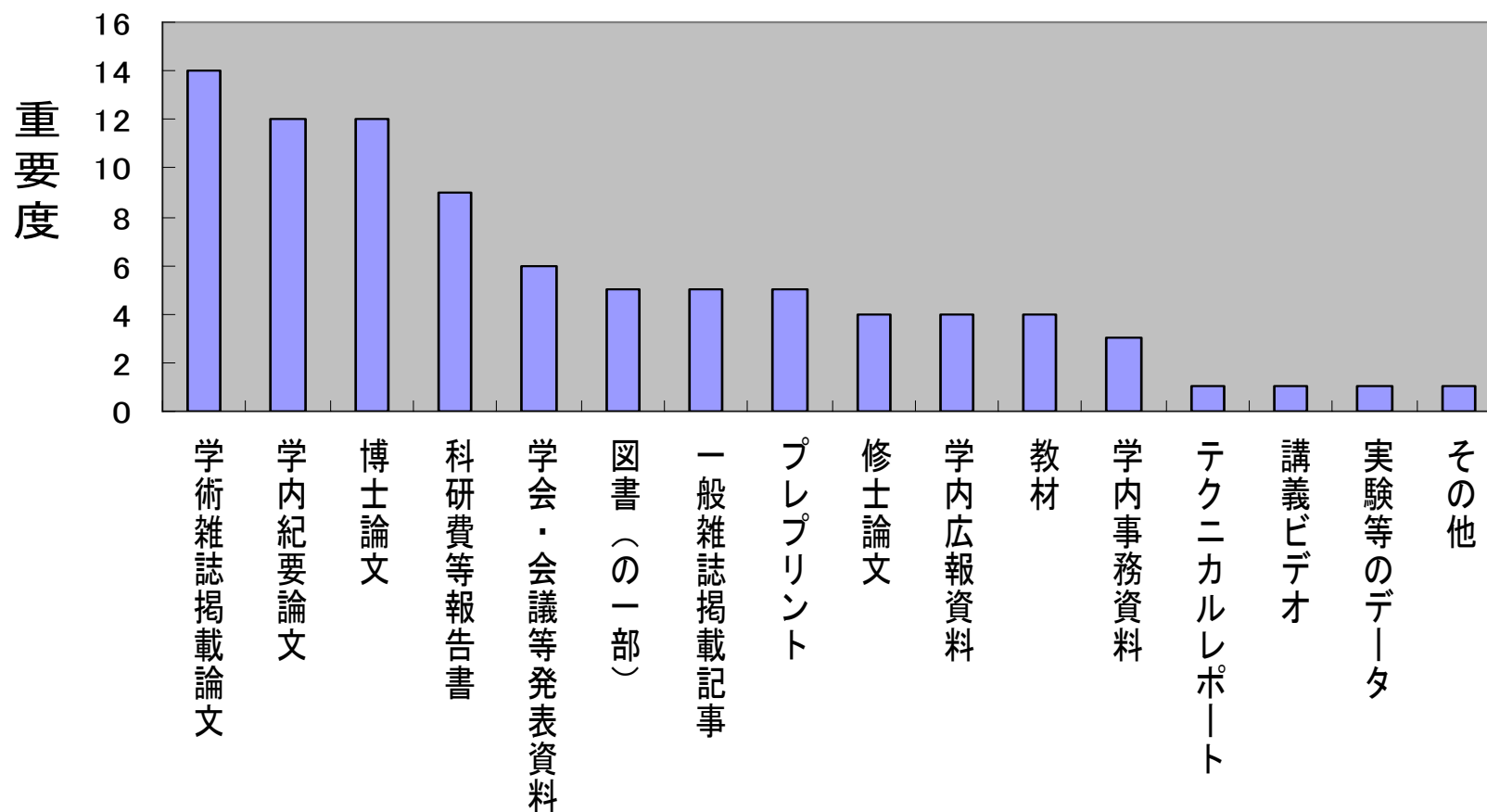
- 1.コンテンツ：現状と今後
- 2.資料の電子化
- 3.システム運用
- 4.他データベースとの連携

北信越地区の機関リポジトリ

名称	運用開始	件数
金沢大学学術情報リポジトリ KURA (Dspace1.4.2)	2006年6月	6600件
信州大学機関リポジトリ SOAR-IR (Dspace1.3.2)	2007年1月	700件
JAIST学術研究成果リポジトリ (Dspace1.3.2)	2007年5月	3652件
新潟大学学術リポジトリNuar (Dspace1.4.1)	2007年5月	5004件
福井大学学術機関リポジトリUFR (Dspace1.3.2)	2007年9月	700件
富山大学学術情報リポジトリ ToRepo (Dspace1.3.2)	2007年12月	1619件

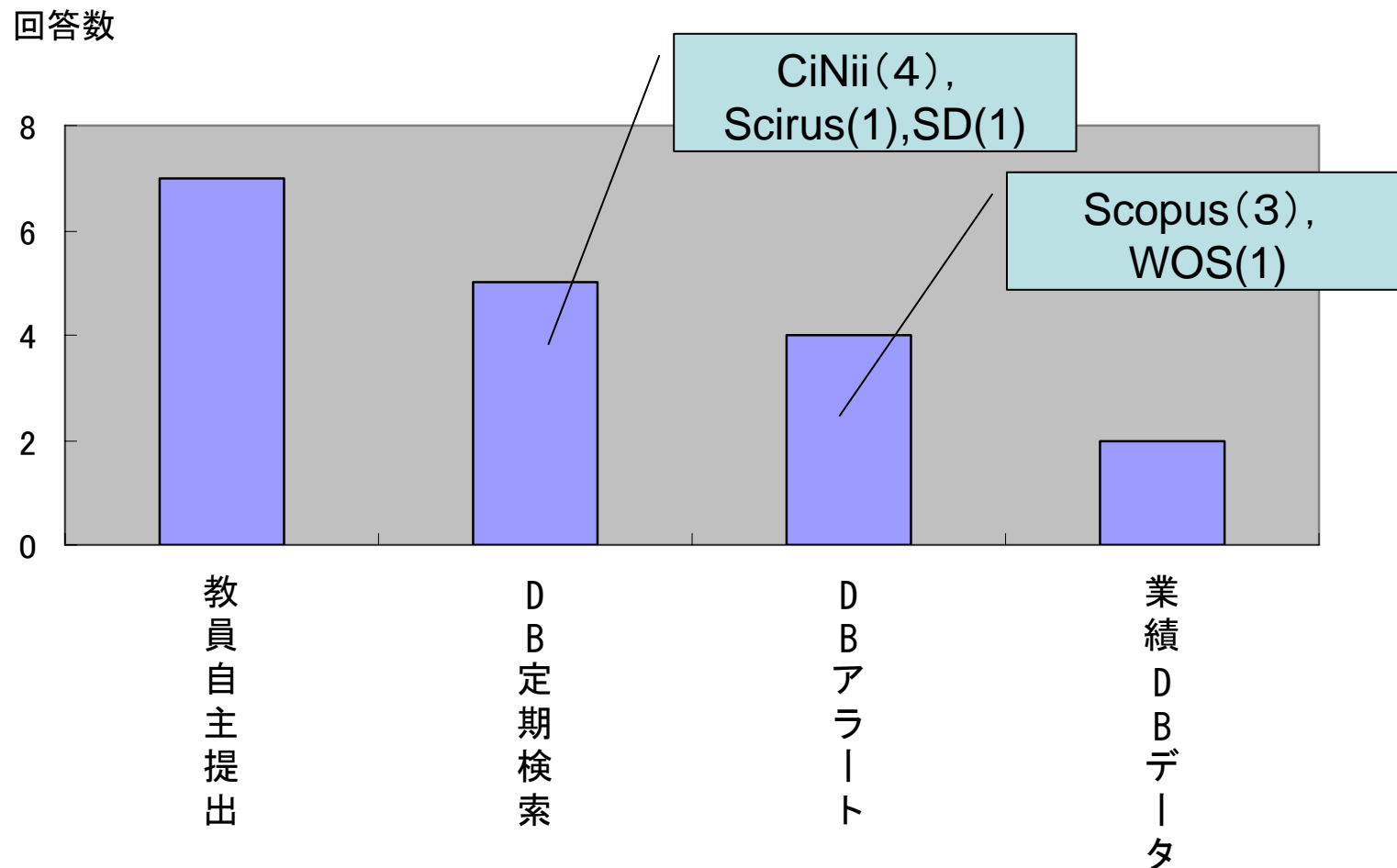
※長岡技術科学大学, 上越教育大学は未設置
2008年2月7日 DRF北陸

1. コンテンツ : 重視するコンテンツ



※ 重視するものを2点，登録したいものを1点として計算

1-1 学術雑誌論文(1)収集方法



1-1 学術雑誌論文 (2)プロモーション

- データベースのアラート機能等を使って、論文が発行されたらなるべく早く捕捉し、教員に依頼を送る(2)。
- 今年より導入したISI Web of Knowledgeを利用し、出版社版の利用が可能な論文について、教員に許諾をとる予定。
- 業績DBとIRとの連携をアピールする

1-1 学術雑誌論文(3)課題(Part1)

- 提供する意思があっても、グリーンジャーナルでなかったり別刷りのみで著者最終稿をもっておらず、掲載できないものが多い(2)。
- 著者最終稿が残っていないケースがある。著者原稿は無い。査読済み原稿がどれかわからない(2)。
- 査読済論文と未査読論文をどこで区別して登録するのか？メタデータ、コミュニティ？
- 共著者全員の許諾がなかなか取り辛い。
- 著者原稿は出版版とは形態が違うため、著者原稿だったら載せてほしくない。
- 著者最終原稿の場合、著者から提出された原稿をそのまま利用しているので、出版社版と異なることが本文中に記述されていないことがある。
- 出版者のポリシーが不明な雑誌が意外に多く、出版者への照会に手間がかかっている。

1-1 学術雑誌論文(3)課題(Part2)

- 著者への依頼状況・著作権処理状況・提供されたファイルなどの管理が煩雑。
- 著作権ポリシーの情報をデータベース化できていない。(現在のところ問い合わせ結果(メール)をファイリングしている。)
- 自主的な提供がほとんどない。
- 1件ずつ登録するには、手間がかかる。(Excelに入力している論文情報から一括登録用データを作成するマクロを作成中)
- 読めないファイル(マック用ファイルなど)がある
- エンバーゴのある論文を登録する際、タイマーのようなツールがあると便利
- 日本語の新着論文を確実に捕捉する手段が欲しい。

1-2 紀要論文 (1)概観

- 最新号をIRに登録する許諾を得ている紀要 84誌
- 発行時にPDFで提供を受けている紀要数 28誌
- 紀要別トップ・ページ(オーバーレイ・ジャーナルなど)を作っているのは 1大学
- 過去の紀要の遡及登録を行っている。 3大学
- NIIの学術コンテンツポータルにも重複して登録を行っている 5大学

1-2 紀要論文 (2)プロモーション

- IRに登録する目的・メリット(引用数アップ, 印刷費・送料の削減)についての説明を各部局等で説明(3)
- 研究成果を広くアピールできることを紀要編集委員会等で説明
- 紀要のページ立ち上げに関する補助、研究者総覧への業績登録

1-2 紀要論文 (3) 課題

- 過去論文は著者に連絡を取れない場合が多く、著作権処理が困難。許諾が簡単にとれないため諦めている。(3)
- 現状では、紙媒体からPDFを作成する必要がある。その手間と質が問題。論文は印刷業者からPDFで入手できるものが多いが、紙媒体でしかないものはやはり手間がかかる。(3)
- 文系教員で、過去分の論文登録を希望しないケースが多い。出版予定論文で登録を希望しない場合がある。(2)
- 過去の分については、まとめてPDF化の予定であるが、予算の確保が問題。
- 学部の方のアクションが鈍い
- 理系については、ほとんど紀要がなくなっている。

1－3 学位論文（1）概観

- 学位論文をIRに登録していますか？・・・博士論文（5），修士論文（2）
- 学内規則等での義務化はされているか？・・・どこもまだ義務化されていない
- 学位論文の電子ファイルでの提出・・・2大学

1-3 学位論文 (2)プロモーション

- 大学院の研究科長に説明に行き，研究科長名で登録依頼文書を学務部署から配布
- 各研究科の担当者に説明を行った
- 学部博士課程代議委員会での説明。教務課の担当者から学生に対して論文の提出を促してもらっている。
- 修了時に電子的利用についての利用確認書を提出してもらっている。(平成12年度～)
- 修了予定者へメールで登録依頼(修了1ヶ月前，提出締切日前日など)
- 登録許諾をもらうための様式を作った。

1-3 学位論文 (3)課題

- 自然系の博士論文は学術雑誌に投稿され、そのポリシーによってしか掲載できない。国内誌投稿分はIRでは紀要の中に入る。
- 電子ファイルでの提出を義務づけるのか？
- 修論のIR登録には、指導教員の許可を必要とするのか？
- 修論中に演奏データ等がついている場合、どう扱うか？
- 博士論文のIRへの登録については、連合大学院の構成大学との協議が必要である。
- 著作権をはじめとする権利の処理にかなり労力を要しそう。
- 現在、印刷不可でPDFを登録をしているので、印刷可能で収集できるようにしたい。
- 学術雑誌の別刷が含まれている場合、別途出版社に確認する必要があるため、論文全体を登録できないことがある。

1－4 科研費報告書 (1)現状

- 科研費等の報告書の登録については、一部を除き、ほとんど行われていない。
- 全国的な動向を見ている状況、先行館の方法を参考にしたい(4)

1－4 科研費報告書 (2)課題

- 学位論文と同様の問題がある。制度の見直しの情報もあるので、動向を見守りたい。全国的に電子公開義務化の流れにならないか動向を見ている状況(2)
- 別刷の合冊のようなものがあり許諾が難しい。また、完全な登録ができないものが多いので、対応を考えているところ(2)
- CSIの重点項目だがどうすればいいか。
- NIIのKAKEN DBも課題・概要のみしか載せていない。
- 複数共著者(別機関所属)がいる場合、共著者全員から同意を得るべきか？本学分だけを登録するか？
- 転載された学術雑誌掲載論文をどう扱うか？

2. 資料の電子化 現状(Part1)

■ 著者版原稿の場合

- 著者最終稿を図書館でPDFに変換 ……大半
- 著者の作成したPDFを使用 ……ほとんどない

■ 出版社版原稿の場合

- 別刷等の冊子をスキャナー読み込み, 自前でPDF化
- 裁断が可能かどうかを確認(画質の良いPDFに変換するため), 紀要の最新号も含めPDFファイルがない
紀要については, このケースが多い(2)

2. 資料の電子化 現状(Part2)

■電子ジャーナル等のPDFを使用

CiNi等i登録済紀要, IR登録が認められている学会・出版社について使用(5)

■印刷業者から提供されたPDFを使用

- 一部の紀要についてののみ(3)
- 紀要でかなりある
- CiNii未掲載の紀要はこれ。

■外注でPDF化

- 平成18年度、19年度CSI委託経費による

2. 資料の電子化 課題

- 過去分については、許諾が得られずまとめて外注しても登録できないものあり(2)
- まとめて外注予定だが、予算の確保が問題(2)
- 自前でPDFを作成するケースが意外に多いが、画質に問題がある場合がある。写真等の画質が悪いものをうまくPDF化できないときがある(2)
- テキストと図が別々になっている論文を見やすいフォーマットでPDF化する作業が難しい。
- 紀要のWeb Publishing化, ボーンデジタル化を進めたい。

3. システム運用 概観

■ 初期インストール作業

業者(6), 情報基盤センター教員に依頼予定(1)

■ 日常的なシステム運用と保守＝保守契約＋図書館員(3)

■ 保守契約の種類

年間保守契約, スポット契約, 問い合わせ回数の制限なし, インシデント契約 など多様

■ 保守の具体的内容

- 使用方法問い合わせ応答(電話・メール)
- 障害発生時の「障害箇所判別」の助言・原因究明
- システムが障害原因の場合のシステム修正
- アップグレード・パッチ情報の提供
- 国立情報学研究所JUNIIとのハーベストサポート

■ 図書館員は, 簡単な作業のみ

3. システム運用 カスタマイズ(Part1)

どの大学もカスタマイズを行っている(6)

内容は以下のようなもの

- ロゴマーク、トップ画面の変更(5)
- メタデータの項目追加、入力画面反映(3)
- 英語ページの追加(3)
- 簡略表示・コミュニティー覧画面のカスタマイズ(2)
- メール通知機能(文献別DL数)・統計機能の追加(2)
- 業績DBとの連携プログラムの作成(2)
- LDAPによる外部からの認証機能追加(2)
- コレクション移動機能追加(2)
- データー一括登録ツール作成(2)

3. システム運用 カスタマイズ(Part2)

- 発信メール、ヘルプ画面の修正(英語版含む)対応
- 学内専用公開(ビットストリーム単位に学外/学内アクセスによる公開/非公開の設定)
- NFS対応(ファイルサーバにデータを保存)
- 博士／修論の入出力対応(専用入力画面作成、目次ページ(検索機能付き)作成)
- 教育研究総合DBからのインポート機能(インポート(重複チェック含む), 仮登録制御(表示, 変更等))
- アクセスログ解析ソフトAWstats(フリーソフト)のインストール・設定
- 投稿者ID付替え機能追加(一括登録後に利用)

3. システム運用 研修

- 行う予定はない。外部の研修等があれば受講したい。
- 行っていない。
- 図書館員で勉強会を実施
- 総合メディア基盤センターで雇用している大学院生からDSpaceインストールについての実習を行ってもらった。その後もメール等でやり取りを行っている。

3. システム運用 ハーベスティング

登録している, 外部ハーベスタ(予定も含む)

- JuNii+(7)
- Oaister(6)
- AirWay(2)
- Scirus (1)

3. システム運用 リンクリゾルバー

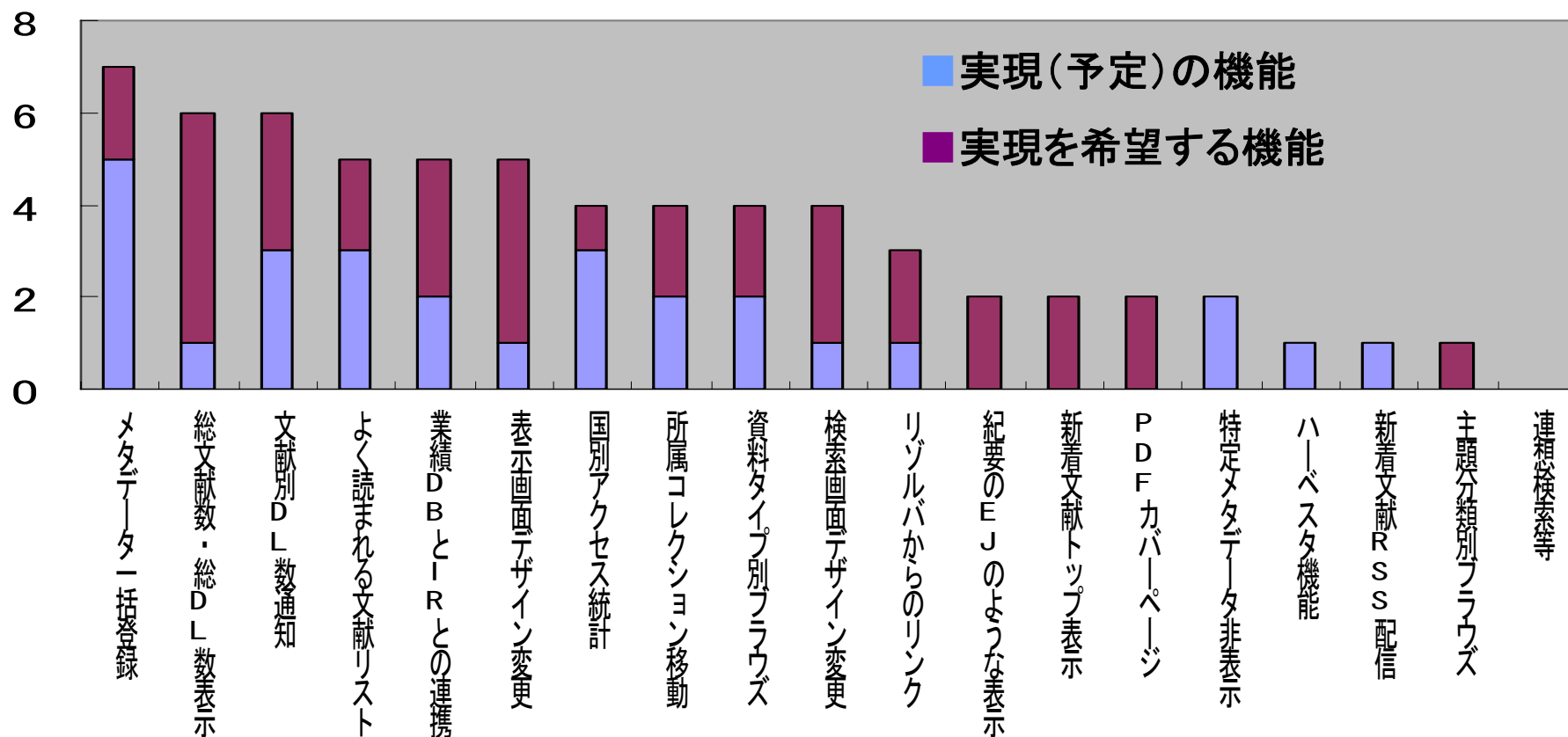
■電子ジャーナル管理ツールの導入状況

- EBSCO A-to-Z (2)
- SerialsSolutions (2)

■リンクリゾルバーの導入状況

- ・SerialsSolutions 360Link(1)

3. システム運用 必要な機能



4. 他DBとの連携

■業績データベース

- 学内に教員の研究業績データベースはあるか？ 5大学
- IRと連携しているか？ 2大学で連携
→詳細は各発表で

■デジタルアーカイブ

- デジタルアーカイブの有無 3大学

5. 協議したい事項・課題等(Part1)

- 教員に対する広報は,どのような方法が効果的か？
- 教員は「著者最終稿」を保存しているものか？
- 他館では何の担当が何人で管理運用しているのか？
- 教育系の国内学会は、IR登録の方針の定まっていないものが多いので調査が必要
- CiNiiなどの一般的なDBに収録されていない場合どうやって把握するか？
- 個人情報に掲載されている場合はどう扱っているか？
- メタデータ記述にバラツキがある点(抄録があつたりなかったり, キーワードがあつたりなかったり)が気になる。
- 検索インターフェイスを分りやすくしたい。

5. 協議したい事項・課題等(Part2)

- 利用者側にとってもっと使いやすいシステムにしたいが、その技術力が乏しい(多少の知識でやった場合にシステムが壊れたときの保証がされない。)。業者に頼むと多額の費用がかかる。
- システムの保守は導入から1年のみで既に切れてしまっている。インシデントパックの購入等が必要か？
- 担当者の養成、研修をどのように行っていくか？
- 大学の学部構成が大幅に変更するため、コミュニティも変更する必要がある。どのような構成が良いか？

まとめ

- この結果は，議論のための参考資料
- 登録コンテンツ，運用方針は各「機関」で決めるべきもの
- 多様性の一方，共通する問題・共同で取り組むべき課題もある。
- この場で解決の難しい問題が多いが，今後も情報共有・交換していきたい。